

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	2192100051
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社
事業所名	憩いの里 すのまた
訪問調査日	平成19年7月9日
評価確定日	平成19年7月24日
評価機関名	NPO法人 旅人とたいようの会

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年7月11日

## 【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入) 2192100051
法人名	メディカル ケア サービス東海
事業所名	憩いの里 すのまた
所在地	大垣市墨俣町大字上宿571-1 (電話) 0584-62-6580

評価機関名	旅人とたいようの会		
所在地	大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成19年7月9日	評価確定日	平成19年7月24日

## 【情報提供票より】(19年5月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 8 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤	12 人, 非常勤 1 人, 常勤換算11.7

### (2) 建物概要

建物構造	木 造り
	1階建て, 1階 ~ 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	29,000 円	その他の経費(月額)	21,000 円	
敷 金	有( ) 円	○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有( 120000円)	有りの場合 償却の有無	有/無○	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	450 円	おやつ	円
	または1日当たり	1050 円		

### (4) 利用者の概要(5月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	8 名	要介護4	4 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 83, 4 歳	最低	65 歳	最高	99 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	墨俣病院	みずの歯科
---------	------	-------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

木造平屋建て2ユニットのホームである。東玄関には利用者に適した高さの物干し台があり、職員と一緒に洗濯物を干す光景は家庭的である。利用者一人ひとりが「その人らしく生活できる安住の場」でありたい。ホーム(家庭)で利用者・職員・地域住民と支えあい喜怒哀楽を共に暮らしたい。そんな理念・思いを全職員が共有している。利用者の話しを入浴中、散歩中、居室で対面で静かに聴く場を工夫し、利用者の思いや望みを叶える意見交換を職員は真剣で、利用者の表情も豊かでゆびゆびした暮らしがみられる。職員の年齢にも幅があり、嫁であったり孫であったり、それぞれの役割で利用者とも良い関係つくりがある。運営推進会議の中で、地域とも家族ともホーム運営に意見交換があり、認知症の理解、災害時対策、終末期など法人の事業主体の指針と共に地域活動の拠点になることが期待できる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>開設平成18年8月1日 事業主体の変更に伴い外部評価は初めてである。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>初回の外部評価実施について、評価の意義を職員に伝え自己評価を全職員で取り組んでいる。またその結果をサービスの改善・質の向上に繋げる意向である。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に1回を定期的に行政・地域・家族のメンバーから意見・要望・質問等活発に進めている。災害時の協力の仕方、訓練方法、連携体制、避難場所など真剣に話し合っている。介護の仕方(オムツ交換)・認知症について教えて欲しいとの声にホームも地域に出かけ、地域住民と膝を交えて学びあう機会に期待できる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族への報告は、訪問時又は手紙にして毎月金銭管理と共に報告と確認をしている。運営に関する意見、苦情、不安については言いやすいように配慮し、意見箱、苦情相談窓口など契約時や折に触れ説明し理解を求めている。最近では直接聞くことが多くなりまた運営推進会議からも意見があり運営に反映している。法人として年1回家族アンケート(無記名)の実施がありその成果などに期待できる。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入している。広報誌を利用者と読みながら行事(夏祭り・秋祭り)に出かけたり、文化祭には利用者・職員も作品を出しその出来映えに家族も喜んで。季節の花を活けてくれたり、書のボランティア、隣人から「雨がふりだしたよ」など声かけや訪問もある。更に通りすがりに立ち寄って一緒にお茶ができる場所を準備したり、近くの高校との交流を図りたい意向もあり、地域福祉の拠点となる役割に期待したい。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(   部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「その人らしいシルバーライフのサポート」が法人の理念にある。「笑顔を絶やさず明るいホーム」「自己決定の尊重」「地域の人とのふれあいを大切に」を独自の理念に掲げ、玄関に掲示している。更に、利用者のその人らしさを生かし地域の中で安心して暮らしつづけられる支援を職員は意識し話し合う機会を設けている。	○	地域に密着したサービスの意義を更に、利用者・職員と共に考え、地域住民にも理解が得られるよう、家庭的な雰囲気の中で、より近隣と馴染みの人間関係を深め、自然な支えあいの暮らしが続けられるような研鑽を期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人の理念を基本に更にホーム独自の理念を作り、朝夕の申し送りに唱和しその意義を確認し実践に取り組んでいる。また新人職員にも理念の意義を説明し理解を促している。理念の唱和に「だいぶ覚えたわ」といつの間にか利用者も参加し共有している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入している。利用者と一緒に広報誌を見て行事(夏祭り・秋祭り)に出かけたり、文化祭には利用者も職員も作品を出展し、地域の一員として活動に参加している。住民が季節の花を活けに訪問すると「いい花ね名前は・・・」など、にぎやかである。「雨が降ってきたよ」「洗濯物が落ちてたよ」「不要の衣服いかが」と隣人や通行人の声かけがある。地元のボランティア(書や絵・美容師)の訪問もある。又中学生の研修も受け入れている。	○	職員の出勤時、利用者と散歩時気軽に挨拶や世間話をしている。立ち寄ってもらえるよう玄関先にパラソルを広げる準備をしたり、「介護相談に来て欲しい」の声に手配を進めている。ホームを地域住民の要望に開放したいと考えている。高等学校も近く、学生とも、中・小・幼児ともより交流が深まることを期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	初回の外部評価実施で評価の意義やねらいを全職員で理解し、自己評価も全職員で作成している。評価の結果も全職員で検討し、改善すべき点を見出し、質の向上につなげる意向がある。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回を定期に開催し、ホームの実際を説明し、質問や意見交換をしている。「地震・火災時どうしたらいいの」等の質問があり、災害時の協力の仕方や訓練について話し合っている。「介護中の家族にオムツ交換を教えて」の声もある。ボランティアなど社会資源の活用も相談している。	○	災害時の協力体制や避難場所の提供など地域との連携が整っている。介護や認知症についても質問があり、ホームから地域に出かけ住民と共に学びあう機会が期待できる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政・包括支援センターの運営推進会議担当者には、相談・助言を受けている。生活保護法の被保険者である利用者の諸問題については、福祉事務所の担当者と連絡・相談を蜜にしながらか支援している。又社会福祉協議会から定期的に訪問があり意見交換したり、ボランティアを要請したり電話することもある。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に「すのまたたより」を送付し日常を知らせている。家族の訪問時には必ず近況を伝え、又意見や要望を尋ねている。金銭管理についても出納帳で確認同意を得ている。訪問の少ない家族には暮らし振りの手紙を沿え金銭の確認もしている。健康状態の変化には、その都度電話したり、直接医師との話し合いの時間も設けたり、受診の結果も知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や苦情を言いやすいように、意見箱、苦情相談窓口の掲示や契約時にも分かりやすく説明しているが、直接言われることが多くなった。「もっとご飯が食べたい」と言うが・・・又病状の心配には「医師との面談」の時間を作っている。法人として年1回家族アンケートの実施があり運営に反映が期待できる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者との馴染みの関係の継続が欠かせないと認識し、職員同士の馴染みも重要と考えている。日常両ユニットを利用者は行き来したり、合同で食事をしたりし混乱は見られないが、新人職員には自然に馴染めるよう職員間で気配りしている。離職を考える職員には話しを聞くことで必要最小限にする努力をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内(法人)研修が段階的に新人、リーダーと充実している。社内の他ホームとは事例を参考にしたりして交流ができる。又外部研修も情報を職員に知らせ、自主参加し他の職員とも受講内容の共有を図っている。外部から感染症予防の研修も受けている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内研修で他ホーム職員と交流し個々の事例の改善策も参考にして、力量を高めているが社外の同業者との交流が乏しい。職員個人的には理学療法士、運動療法士、施設と交流を図り助言指導を求め職員間で共有している。	○	社内研修で十分職員の質の向上は図られている。更に職員個人的な交流を基に、地域の同業者と交流や連携を深め地域全体のサービス向上に期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が戸惑うことがないように、入所前から自宅に伺い、本人・家族との生活の様子、地域の雰囲気、環境など話し合い、ホームにも遊びに来てもらい利用者・職員とも馴染める環境に心がけている。トイレの位置、かかりつけ医(歯科)など要望を聞き安心感に配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「支援する側、される側」の関係でなく「出来ることを役割」とし「協力しながら生活する仲間」と利用者を尊重した支援をしている。馴染みの病院、美容院、以前利用したサービス事業所へ訪問、孫の訪問、利用者同士が顔の見えるテーブルの位置、家族と一緒にホームで食事をするなど、家族、利用者同士、職員と喜怒哀楽と共に支える関係がある。		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	就寝時間、食事、入浴など今までの生活習慣に沿うよう努めている。「尿瓶を使いたい」「本当はトイレに行きたい、でも心配」「車椅子を準備しましょう」「私は避難するのにどうやって逃げるの」居室で利用者と管理者は1対1でゆっくり思いを聴き、家族の意向も合わせて検討している。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の生活記録から、利用者・家族の思いを反映させ、また職員の気づきや意見を取り入れて「その人らしく暮らせる」計画を作成している。必要に応じ主治医の意見、専門家(利用者に必要な医療関係者)の意見を伺うこともある。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月を定期的に見直しをしている。状態の変化があればその都度見直しをしている。介護記録からモニタリング評価表に全職員の気づき(予防分野も含め)を書き込み、家族・介護支援専門員の意見も含めて現状に即した見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者・家族の状況・希望に応じ、医療連携体制を活かし受診、通常の外出で出来ない、特別な買物(洋服・化粧品)特別な外出(個別に行きたい所)にも柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に協力提携医やかかりつけ医の受診の自由を説明している。月2回の往診、週1回の看護師の訪問で利用者の健康の把握、相談助言、医師との連携がホームとも気軽に話し合える状態にある。家族の納得が得られない場合は直接医師を交えて話し合うこともある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	平成19年1月「重度化した場合における医療体制指針」を法人同一の資料として家族に提示し説明している。対象者は現在いないが現実的な話し合いはこれからである。	○	法人の指針に沿い早急に他のホームの事例も参考に、ホームの考え方や意向が定まらないままその時期を迎えないように、独自に利用者・家族、医療者、職員で話し合いを段階的に重ね、利用者・家族の安心と納得が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常会話やトイレ誘導は自尊心を損ねない対応である。介護記録にヒヤリハットの欄を設け一日の支援の振り返りを行っている。互いに反省や注意を促し改善している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおよその一日の流れはあるが、利用者の生活習慣、体調・思いを重視し「朝ゆっくり寝ていたい」「朝はパン」「ご飯にゆかりを振りたい」「食事時間がずれる」「居室で新聞を読みたい」「居室で好きにしたい」「日記を書く」「花の水遣り」「化粧をしたい」など利用者一人ひとりの時間に合わせその人らしい生活ペースにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を見て、下ごしらえ、味付け、盛り付け、配膳まで利用者や職員が協働している。畑の野菜が取れると早速食卓に並び、又旬の食材は「どうやって食べるの」「最初の処理はどうするの」など利用者に教わりながら調理している。利用者も職員も同じものを同じテーブルで使い慣れた食器で、楽しく語りながら食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴も夕方7時まで可能である。利用者ごとの入浴日を決めず、声かけで希望にあわせている。訴えがなくても最低週2回は入浴できるよう、声かけの工夫をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家族や利用者から得意なこと、好きなことを尋ね、食事づくり、畑仕事、洗濯物、掃除など少しでも、今だけでも役に立っている実感をもつ場面を作っている。毎日献立表の書き換え、カレンダーの日付変え、ズボンのすそ直し、夫婦の役割、最高齢の利用者が歌を唄ったり、タオルをたたむ姿は利用者を和ませ癒される存在になっていることに職員は感謝の言葉をかけている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調に合わせ、天気がよければ散歩、外出(ドライブ)し外気に触れ季節を感じている。コンビニ、図書館、喫茶店などに出かけたり、特に自力歩行が難しい利用者を車椅子を利用してでも外出させたいと職員は考えている。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を施錠することの弊害を理解しているが、日中防犯上簡単な利用者も外せる鍵をしている。チャイムが鳴ると利用者が出迎えに出たり、来客の見送りをしている。出かける時(洗濯物の取り込み、畑の水遣りなど)は「一声かけてね」と伝えている。又利用者一人ひとりに起こり得るリスクを予知し毎日ヒヤリハットを介護記録に記入し、家族の理解や、事故を未然に防ぐ取り組みをしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力で救急救命の講習を受けたり、避難訓練を、地域住民と連携をとり実施している。定期的に消火器点検時に使い方を学んでいる。緊急連絡網は電話の近くに掲示し、安全の配慮がある。避難場所として隣接のテニスコートの提供もあり、安心できる。	○	繰り返しの訓練や対策の見直しは安全・安心に繋がると考える。万一に備え、避難経路や非常食料についても法人体制の意向に期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援							
	28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている		利用者一人ひとりの食事・水分摂取量を介護記録に記入している。法人の栄養士の栄養バランスのある献立を基本に、利用者の嗜好・郷土食を考慮し専属の職員が調理している。利用者に合わせ、刻み食や粥にしたり、主治医と相談して栄養補助飲料を使用する場合もある。食前に嚥下体操や食後口腔ケアにも配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり							
(1) 居心地のよい環境づくり							
	29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている		玄関周りのプランターに季節の花が咲きベンチもある。玄関内の靴脱ぎ椅子、季節の花、廊下隅の椅子、ソファ、手すりの高さ、テレビ・掲示物(利用者の作品)・表札が目線の高さになっている。調理の匂い、採光も優しい、プランターの胡瓜、茄子、トマト、草花や、テニスコートでプレーする姿も食堂から見られ話題が豊富で、利用者本位の空間づくりとなっている。又気になる臭気もない。		
	30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている		入居時に箆笥、鏡台、家族の写真、化粧品など持参し、鉛筆画、書、作品を見やすい位置に掲示したり、新聞や時計、カレンダー、ぬいぐるみなどを利用者の好みに合わせている。毎朝職員と一緒に掃除し清潔になっている。簡易畳も準備し好みで使用している。		